

海外安全対策情報（令和3年1月～3月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

- (1) 1月14日、一部地域で若者等による集団不法行為が発生。その後、15日から17日にかけてチュニス、マヌーバ、ビゼルト、ナブール、ベジャ、シリアナ、スース、モナスティール、マハディア、ケビリ、カイルアン、カスリーン等でも発生し、18日までに632名が逮捕された。
- (2) 2月27日、チュニス中心部でエンナハダによるデモが行われ、4万人(警察発表)が参加。
- (3) 3月30日、タタウィンにおいて、政府が行った雇用に関する合意の不履行に抗議する数百人の群衆が県庁への襲撃を試みた。
- (4) 3月31日現在、新型コロナウイルス感染者数累計255,308人、死者8,843人。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

邦人が被害に遭遇した凶悪犯罪事件は認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 1月7日、内務省は、テロを計画していたとして、ウクバ・ビン・ナフィア幹部を含むテロ関係者5人を逮捕、武器・弾薬等を押収したと発表。
- (2) 2月3日、カスリン県マギラ山において、兵士4人が地雷の爆発により死亡。国防省は、ジュンド・アル・フィラーファの関与と発表。
18日、ISは、本件及び昨年12月20日、サルーム山における羊飼いの斬首事件について犯行声明を発出。
- (3) 2月8日、ビゼルト県治安当局は、テロ組織への所属の容疑で6人を逮捕。銃、弾薬、電子機器等を押収したと発表。
- (4) 2月17日、内務省は、テロ組織との関連が疑われる5人を逮捕したと発表。うち4人は16日、シディブジッド県でテロ組織への所属の容疑、1人はガフサ県で逮捕。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

当国で日本企業を標的とした事例はありませんが、2019年6月27日チュニス市中心部で、2020年3月6日には米国大使館前で、同年9月6日にはスースのリゾート地に通じるロータリーで、それぞれ死傷者を伴うテロ事件が発生しています。また、隣国リビアでも不安定な情勢が続いている上、ISが、新型コロナウイルス感染拡大につけ込み欧米諸国に対し攻撃を仕掛けるよう呼びかけています。こうした状況に鑑みれば、今後も外国人・外国権益を標的としたテロ・誘拐事件が発生する可能性は否定できませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要です。

外務省ホームページで「スポット情報」、「危険情報」を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いいたします。